

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100770		
法人名	株式会社 夢・未来		
事業所名	グループホーム方木田		
所在地	福島県福島市方木田字水戸内8-15		
自己評価作成日	平成31年2月20日	評価結果市町村受理日	令和元年7月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成31年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気、自分らしく過ごせるよう支援しています。また、家族や馴染みの方たちが訪れやすい環境づくりを行っています。利用者様の希望や訴えは即日対応を心掛け、叶えられるよう職員の連携、情報共有に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 入居時に本人、家族の意向を丁寧に把握し、入居後は利用者へ寄り添いながら思いを汲み取り、散歩、歌、ハーモニカ演奏など利用者のやりたいことが継続できるよう支援している。また、利用者が落ち着かない場合も職員間の連絡ノートで情報を共有し、本人の思いや落ち着くケアを検討し取り組んでいる。
 2. 入居時に利用者、家族に重度化した場合の対応について説明し、「終末期事前確認書」で意向を把握している。また、重度化した場合は、訪問診療医、訪問看護師と連携し、家族の意向も確認しながら口から食べられる工夫や訪問入浴の利用など職員間で後悔しないケアを目標に取り組んでいる。さらに、家族の宿泊環境も整え、一緒に利用者へ寄り添った看取りケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の際に確認し共有している。	2年前他法人から経営を引き継いでいるが、利用者のニーズに寄り添うことと地域との連携など地域密着型の理念を策定し、混乱もなくスムーズな継承が行われている。毎日朝の申し送りの時、理念を確認し合っている。利用者のやりたいことを把握し支援するなど理念を意識した実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お誘いがあった行事には参加させて頂くようにしている。回覧板を届けたり、散歩の時にご挨拶や会話の機会を作っている。	毎週地区の公民館で行われる高齢者体操教室に参加したり、地区の夏祭りに出かけ地域の方と交流している。さらに、関連法人のコンサート等にも参加し楽しんでいる。また、散歩コースなども運営推進会議の地域委員の花情報を活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣で困っている方へのアドバイスや、地域の方が相談に来られた時に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	偶数月の第三土曜日に開催している。事業所の取り組みや問題点についてアドバイスを頂いたり、参加した地域の方の情報共有の時間も提供している。その中で、認知症で困っている事などにアドバイスなども行っている。	定期的開催され、事業所の運営や行事、事故などを報告している。委員から地域の認知症の方の情報、介護相談なども受けている。利用者を楽しめるレクリエーション、予防注射の時期など多々アドバイスがあり、サービス向上に活かしている。なお家族の都合がつかず会議への参加が少ない。	家族の方との日程調整などを行い運営推進会議に参加いただけるよう工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の利用者様が2名いる為、担当の方へ状況報告や、相談など行っている。	地域包括支援センターと密に連携が保たれている。行政からの依頼で生活保護の利用者を受け入れることが多く、市の担当とは様々な面で相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、3ヶ月に1回、検討会を実施し、日常の中で拘束になりそうな事案の情報共有は常に行っている。	身体拘束排除マニュアルを策定し、身体拘束廃止委員会で話し合っている。外部研修に参加し、ミーティングの時報告して内容の理解に努めている。また、運営推進会議でも取り組みを報告している。職員がストレスをためないよう休暇を取れる環境や困難なケースには複数で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会および、職員同士の声の掛け合いで未然に防いでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様がいるので職員へ説明したり、ご家族の方へアドバイス等も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず管理者が内容の説明をし、同意を頂いている。また、経営者が変わった際も直接お話しし納得いただき同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪ねて来られた際、5分～10分時間を頂き、生活状況の報告、説明をし家族からの要望、意見を伺っている。	家族の面会時は時間を取って意向を聞くほか、利用者の意向も把握して散歩や行事、食事など生活に取り入れている。意見を言えない利用者には、着る服を選んでもらったり食事の時箸かスプーンか等選択できる機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月初に職員会議を行い、必ず職員の発言の場を設けている。些細なことでも蔑ろにせず、反映するよう努めている。	職員会議の時など管理者は職員一人ずつ発言を促し意見や提案ができるようにしている。職員も遠慮せず管理者には言いやすいと感じており、風通しの良い職場環境となっている。把握した要望などは社長に上げて、実現できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを実施している。月3日、休日の希望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所から提案した研修以外に、職員の希望する研修への参加も後押ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の行事などへの参加や、外部の研修での交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報に固執せず、一からコミュニケーションを図り信頼関係を築くようにしている。職員間の情報共有を重視し、対応に齟齬が無いよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みにいらした際、時間をかけ家族の思いを伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と利用者様の思い、希望をそれぞれ伺い、お互いが納得して入所して頂けるよう、様々な提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の希望を伺い、出来る事、出来ないことを明確にし、色々な角度から提案した上で選択して頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際、家族の方の希望があれば介護に参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩の延長で足を運んだり、会えない方とは電話で会話して頂くなど、関係を継続できるよう支援している。	近隣からの入居者が多く、散歩のとき足を延ばし自宅周辺を散歩している。知人、友人の訪問や電話も多く、毎日訪ねてくる家族もいるなど気軽に訪れやすい雰囲気となっている。さらに、馴染みの美容院に家族の協力で行く方もおり、これまでの関係の継続支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えを行ったり、時間で輪に入って頂くなど、孤立してしまわぬよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される時に、どんな些細な事でも相談を受ける旨を伝え、再度、名刺をお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様同士の会話に耳を傾けている。希望などが聞けた際は、職員も会話に混ざり、叶えられるよう努めている。	入居前に管理者が訪問し、本人、家族の意向や状況を把握している。入居時は計画担当が確認している。散歩、歌、ハーモニカ演奏など利用者のやりたいことなど丁寧に聞き取りケアに活かしている。落ち着かない場合も本人の思いを職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される時点で、家族や地域の方から詳しくお伺いし、入所後は利用者様の視点でお伺いし情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼や申し送り、朝夕のバイタル測定、表情の変化や、行動などから把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員やご家族からの意見や、日常の些細な出来事も会議で話し合い、ケアプランに反映させている。	毎月ミーティングで利用者一人ずつの状況や変化、ケアの方法を丁寧に話し合い、検討が行われている。それをもとに管理者とケアマネジャーがモニタリングを行い、本人の希望や家族の意向も入れて介護計画を見直している。、原則3か月ごとに見直す。状況変化時は随時見直しており、現状に即した介護計画の策定に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違った行動や、出来るようになった事など、記録を通しての情報共有も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の希望で外出の付き添いや、家族が対応する際の介護の指導など行っている。また、利用者様が希望、提案するレクリエーションの実施。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事など、民生委員や地域の皆さんの支援を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診と、往診体制も出来ている。	入居時に受診先について意向を確認し、継続通院又は往診で対応している。通院は家族の協力をお願いしているが、家族の事情により職員が対応する支援も行っている。家族が同行する場合はメモや電話で医師に情報を伝えている。受診結果は、家族に報告し情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護を受け、夜間の緊急時に備え、連絡体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の病院のケースワーカーとは、定期的に情報交換をし、入院した際には早期退院に向け、様々な情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に、重度化した時の対応を伺っている。その際、いつ何時でも方向性を変えられる事をお伝えしている。	入居時に利用者、家族に重度化対応指針で説明し、終末期事前確認書で意向を把握している。重度化した場合は、訪問診療、訪問看護と連携した看取り体制を整えている。職員間で後悔しないターミナルケアを目標とし、家族の宿泊環境も整い、思いに寄り添った看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、すぐに対応して頂けるよう、医療機関、訪問看護と連携している。訓練は、今後実施する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	月1回の夜間を想定した避難訓練と、年2回の総合防災訓練を行っている。地域の方にも協力を仰いでいる。	毎月1回夜間想定訓練も含めた自主防災訓練を実施している。また、年1回消防署立ち会い訓練も行い、消防署のアドバイスで、2階の外階段に避難用テラスを設置している。近隣の方に緊急連絡網に入っていたり、地域との連携にも取り組んでいる。非常用備蓄も3日分備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を傷つけないよう、ケアをする際は居室で行い、声掛けにも配慮している。	プライバシーや尊厳を意識してケアに当たっている。特に排泄・更衣は、必ず居室で対応している。声かけ等も周りに配慮し小さな声や目線を合わせ対応するなど誇りを保てるように配慮している。職員間の会話でも利用者に聞かれたくない場合は、名前ではなくイニシャルを使う工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを実行する際は、必ず利用者様の意見を聞いてから実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人から断りがあった時は無理強いせず、臨機応変に対応している。職員を優先することが無いよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望する身だしなみを支援し、そこに至らない利用者様には無理のない声掛け、お手伝いを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	業者を利用している為、調理に関しては手伝って頂けことが少ないが、後かたづけや茶わん拭きなど、出来ることは手伝って頂いている。	食事の準備や片付け等を率先して行っている利用者もおり、出来ることはやっていたりするようにしている。また、食べこぼし等出来る範囲で片付けてもらい職員が後からそと清掃している。行事食等は利用者の要望を取り入れたり、おやつと一緒に手作りするなど楽しい時間としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量、食事量をチェックしている。また、医師に相談し、栄養補助飲料など処方して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、職員がついて口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握できるよう努めている。自分で行ける利用者様には、さりげないサポートを実施している。	排泄の確認は、排便確認表で排泄パターンを把握し、便秘時は、ヨーグルトや腹部マッサージ等を行い自然排便につなげている。便秘が続く時は、医師に相談し服薬で対応している。また、食事前、起床や就寝時に声掛けを行い、ほぼトイレでの自立排泄が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用い管理している。運動やマッサージ、水分量に注意している。いざという時の為に、下剤も処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する曜日は決まっているが、臨機応変に対応している。必ず本人の意思を確認している。	入浴は週3回、本人の希望を聞きながら対応している。入浴を拒否する利用者には、次の日に変更するなど柔軟に対応している。季節感を感じられるように、柚子・菖蒲・リンゴ風呂にしたり、冬は、入浴剤等を使用し体が暖まる工夫をするなど入浴を楽しめる雰囲気づくりに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があれば午睡をして頂いたり、室内の温度を個々に合わせて調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬情報ファイルを準備し、いつでも確認できるようにしている。誤薬を防ぐため、ダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が興味を示したものはチャレンジして頂いたり、趣味の道具など、積極的に持参して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩を日課とし、冠婚葬祭や温泉旅行などの参加支援を行っている。	日常的な散歩の他に、地域のお祭りや公民館の体操、さらには系列事業所のイベントに出かけるなど、外出支援に努めている。また、本人が買い物を希望する場合は、散歩を兼ねて職員が一緒に外出している。家族の協力で馴染みの床屋、外食等の機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちのお金を持っている利用者様の希望があればスーパーへ行ったり、散歩の延長で買い物ツアーと銘打ち、レジでの支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話のお預かりや、手紙や電話の取次ぎなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけをし、目で季節を理解して頂く工夫や、気温や騒音が出ないように努めている。	居間は入居者の要望も聞きエアコン温度を調整し、騒音も少なく穏やかな環境となっている。また、季節を感じられる飾り物や共同制作の作品などが飾られており、居心地良く過ごせるよう工夫している。さらに入居者間の関係も考慮して席を決めるなど、お互いの会話が弾むように留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を変えたり、作り付けの円テーブルを作成したり、思い思いの場所で過ごして頂けるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご自宅から家具の持ち込みや、電化製品の持ち込みなど支援している。また、家族の希望があれば宿泊も許可している。	居室内には、使い慣れた家具、寝具、写真、手作り作品等が置かれており落ち着いた居住空間となっている。親族等の宿泊準備も備えており家族との時間を十分取れる配慮も出来ている。また、利用者の状況によってはベットから畳のマットに敷布団で対応できるなどその人らしく過ごせる部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何の場所か一目で理解いただけるよう、張り紙など工夫している。		